

第3種チームにおける感染症対策について

新型コロナウイルス感染予防対策として、静岡県サッカー協会3種年代の各種大会の開催にあたり、当面の間、下記の内容を各チーム、各会場、徹底して行う。各会場では感染責任者を置き、しかるべき対応を確実に行う。

また、各種対応は、静岡県の警戒レベルに対する対応を最優先とし、各種事業は、静岡県サッカー協会と協議し、その都度、決定する。

2020.11.12

感染、濃厚接触における対策

- ① 登録選手・スタッフ自身が検査の結果が陽性である、または検査対象・検査中である場合
→該当選手、スタッフの参加を認めない。チームの出場については、保健所の指示のもと、3種役員会で、協議の上決定する。

- ② 登録選手・スタッフの家族が濃厚接触者となった、またはその疑いがあり、検査対象・検査中である場合
→該当選手・スタッフの参加を認めない。チームの出場については、保健所の指示のもと、3種役員会で、協議の上決定する。

- ③上記以外の登録選手・スタッフの関係者等（登録外選手、チーム内別カテゴリー選手、スクール生、登録選手の通学する中学校、スタッフの勤務先、家族の通勤・通学する勤務先・学校等）が検査の結果陽性である、または検査対象・検査中である場合
→関係選手・スタッフの参加とともに、チームとしての出場も認める。ただし、登録選手の通学する中学校が新型コロナウイルス感染者発生での休校中の場合は、その選手の出場については、協議の上決定する。

※上記①～③に該当する場合は、早急に、各支部の委員長に報告し、各支部委員長は、速やかに3種委員長の中野まで報告をする。クラブ連盟所属のチームはクラブ連盟委員長または副委員長でもよい、その場合も必ず、方向をするように。

（各支部の委員長と相談し、該当チームが直接、3種委員長に報告してもよい）その後の対応は、保健所の指示のもと、静岡県サッカー協会、3種委員会で協議し決定し、各チーム、該当支部の支部長に報告する。

※協議については、チームからの情報等をもとに静岡県3種委員会（委員長、副委員長、該当支部の支部長、顧問）で行う。

※個人や団体（チーム）で感染状況を判断せず、活動や大会への出場について必ず保健所等の判断を仰いだ上で、委員長や支部長に連絡をすること。

※試合出場の可否については、試合の2日前までに判断・決定をする。

試合等における対応

- ① 各選手は毎日検温をし、開催当日、体温が 37.5℃以上または平熱より 1℃高い場合は、試合や各種事業に参加をしない。
- ② 各チームは手指消毒用のアルコール液や手洗い用の石鹸、うがい薬、ペーパータオル（各選手に各自でタオルを用意させるでもよい）を用意する。活動前後には必ず、うがい、手指消毒を行う。清潔な水道が確保できない会場では各種事業は行わない。バスなどの移動時には、マスクを着用する。バス内は換気も必ず行う。
- ③ 試合開始前の握手などのセレモニーは行わない。対戦チーム同士が向かい合って礼や挨拶も行わない。（用具のチェック後、グラウンドに少し入り、広がり、礼をしたら、そのままポジションにつく）
- ④ 試合中は、ベンチ入りのスタッフ、選手は必ずマスクを着用する。
- ⑤ 試合終了後、センターサークル付近に集まり、広がり、主審の合図でベンチ、保護者・応援者・観戦者（前と後ろ）に礼をしたら、そのままベンチへ、応援席や相手ベンチへの挨拶は行かない。
- ⑥ 試合中はコート周りのボトルなどで多数の選手で飲料の飲み回しを行わない。試合中の選手の飲水が確保できない状況であれば、各試合で飲水タイムを設定してもよい。飲水タイムの設定（回数や時間）は主審、会場責任者の判断とする。
- ⑦ 試合と試合の間では、試合の前後のチームが交わらないように、完全にベンチを空けてから、次のチームが入るようにする。
- ⑧ 保護者や応援団などの試合の観戦者は試合のコートより 3m 以上離れる。（副審より 2m 以上）必ずマスクを着用し、各々も適性の距離をとる。
- ⑨ 試合終了後や帰宅後に各選手に、体調に異変があった場合は、所属チームの責任者は、リーグ戦は、各ブロックの運営担当へ、各種大会や事業はその活動の感染対策責任者に報告し、責任者は 3 種委員長中野まで報告する。その後の対応は、静岡県サッカー協会と相談し、対応を決定する。

その他

各選手や各チームでは日頃から体調管理を行い、異常がある場合は、活動を控えるように。尚、6 月～9 月の試合においては、WBGT で数値を測定し、適正な暑熱対策を行う。

上記はサッカー協会としてのガイドラインである。

しかし、学校内でサッカー部の生徒またはサッカー部以外の生徒・教員が感染者となった場合、学校の判断として、「部活自粛」という判断が下される可能性が高い。その場合についての上記にあてはまらない場合は大会出場については各学校の判断に任せる。

【大会について】

辞退した場合については、不戦敗・不戦勝となる。

大会当日に辞退が判明した場合は、試合会場で辞退を知ることもあり得る。それは仕方のないこととする。

1回戦・2回戦で辞退した場合対戦相手は不戦勝で勝ち上がり。その後の試合時間の変更は行わない。

3回戦で辞退した場合、対戦相手は不戦勝で勝ち上がり、試合時間は変更しない。準々決勝も試合時間を変更せずに行う。

3回戦2試合が不戦勝となった場合の準々決勝の試合時間は本部・双方と協議の上決定してもよい。

ベスト4のうち1チームでも辞退した場合、大会は不成立とする。

大会が不成立となった場合には、中体連の残り1枠の扱いは中体連事務局の決定に従う。